

情報連絡員報告総括表（令和5年6月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	1	3		1	3			4		1	3		1	3			4		1	3		1	3		1	3		1	3		
	繊維工業	2	1			3		3			1	2		1	2			3			3		1	2			3			3		
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1			1	
	紙・紙加工品		1	1	1	1			1	1		1	1		1	1		2				2		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1				1		1				1			1						1	
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		2	1		3		2	1		1	2			2	1		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1				1			1			1			1					
	一般機器	1	2		1	1	1	3				3			1	2		3			3			2	1		2	1				
	電気機器			1		1			1			1				1			1			1		1							1	
	輸送機器	1			1				1			1				1			1			1			1						1	
その他																																
小計		6	10	4	4	15	1	9	9	2	3	15	2	3	9	8		18	2	1	13	6	2	15	3	1	12	7				
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X		2			2			1	1			
	小売業	2	2	2	1	4	1	3	3			5	1		3	3		4	2			6			3	3						
	商店街	1				1		1				1			1			1				1			1			1				
	サービス業	1	2	1	X	X	X		4			4			3	1		3	1			3	1		1	3		1	2	1		
	建設業	1	2	1					4			3	1		3	1		3	1			3	1		4			3	1			
	運輸業	1							1			1			1		1					1				1		1				
	その他		2						2			2			2			2				2			2			2			2	
小計		6	10	4	1	7	1	6	14			18	2	1	13	6		16	4		1	18	1	2	12	6						
合計		12	20	8	5	22	2	15	23	2	3	33	4	4	22	14		34	6	1	13	6	3	33	4	3	24	13				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年6月～令和5年6月)

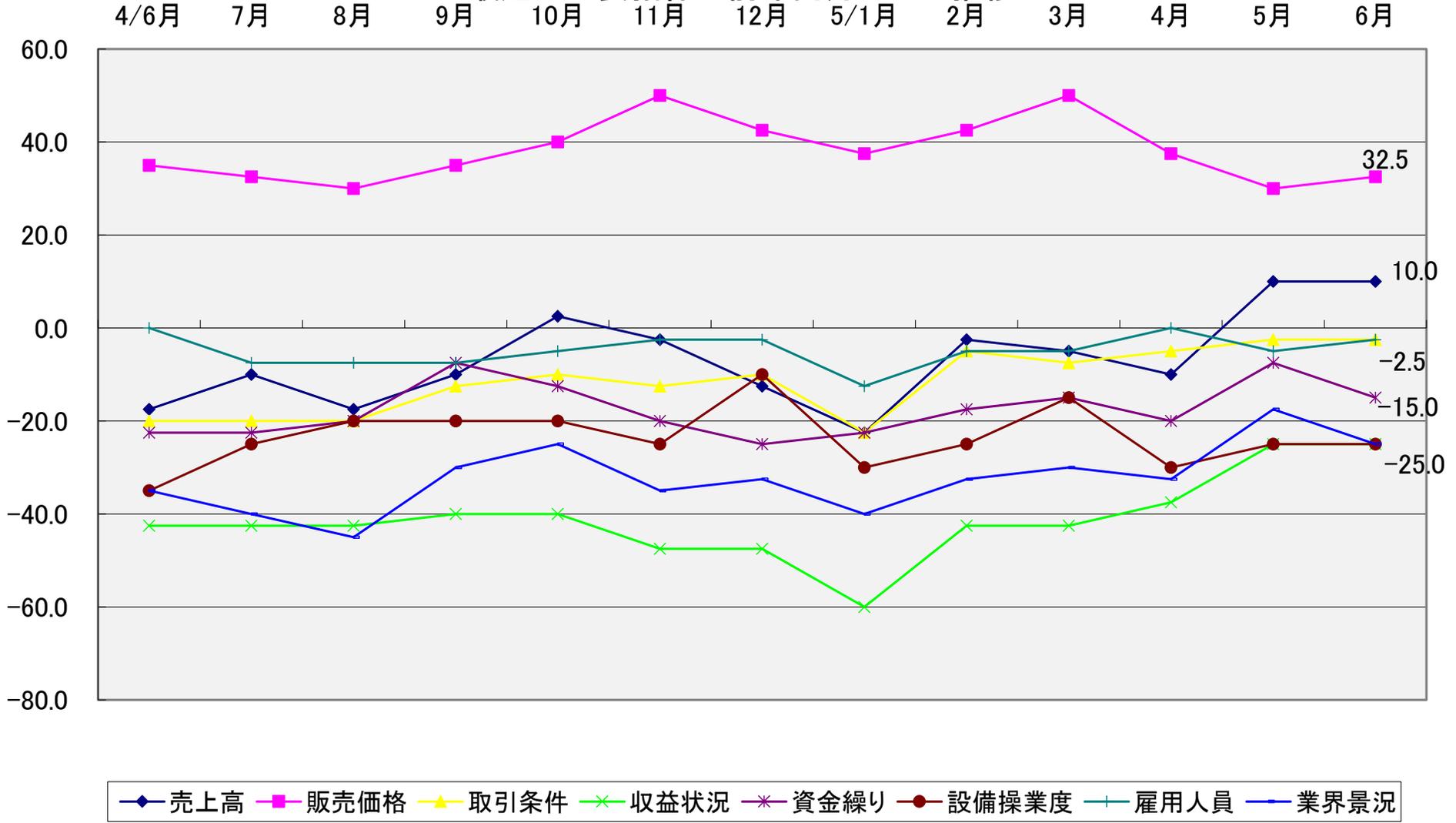
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	4/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	6月	増減
売上高	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	10.0	10.0	0.0
販売価格	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	30.0	32.5	2.5
取引条件	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0
収益状況	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	-25.0	-25.0	0.0
資金繰り	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-7.5	-15.0	-7.5
設備操業度	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-25.0	-25.0	0.0
雇用人員	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	-5.0	-2.5	2.5
業界景況	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-17.5	-25.0	-7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年6月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年度は例年並みの収穫が得られ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。また、販売状況においても、コロナウイルス規制の緩和により、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方で、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ており、特に電気代が約50%値上がりしており経営を圧迫している。また、今年からオンラインで会員間の情報交換会を計画しており、7月19日の13時から予定している。
		醤油味噌	仕込み原料の数量はほぼ予定通りだが、前年比で金額が減少した。MSG(グルタミン酸ナトリウム)、天調、油脂、食酢、発酵調味料等の様々な商品の納入が減少している。 ゴールデンウィークには賑わいをみせた観光、飲食業界等は継続して回復傾向に思われる。ただ、量販店での店頭売価は食品、野菜、肉等については値高い環境が続く、麦価改定でパン、麺が値上がり、未だに卵の入荷不足と高騰が続いている。物価高対策として買い控えが続いているが、通販等の産直品が伸びている消費者購買欲のギャップは何であろうか。4月に申請した、輸出補助事業の認定が下り、今年度も三重県産醤油のPRの展示会に出展する予定である。
		他に分類されない食料品 製造業	物価値上げが続く中、4月より当事業場内最低賃金を50円引き上げた。業務改善補助金がいただけたら、生産性向上すべく設備投資ができるかと喜んだが、地域別最低賃金の差額が30円以内であることとの文言があり、残念だった。 インフルエンザの流行で学級閉鎖もあったものの売上はほぼ例年通りであった。
		製麺	総会も終わりコロナも明けてきて、観光地はお客も多くの方々を訪れ賑わっている。飲食店も賑わいが戻ってきている。7月より組合活動も今後の組合員の情報を共有していけるように取組んでいく。まだまだ原料の値上げ等、円安が続いているが、どのように変化していくのかを見守っている状況である。
	繊維工業	衣料縫製	資材高騰により利益が圧迫されている。また、今秋の最賃引上げがさらに経済環境を悪化させてしまうのではないかと懸念している。
		テントシート	売上が改善されたが、仕入価格の上昇に価格への転嫁が十分に行えていない。
	木材・木製品	木材	依然として燃料費、輸送費の高騰が経営に影響している。
	紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
		古紙	6月の仕入量：段ボール・約9±2%、新聞、チラシ・約8±3%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約9±3%である。インバウンドによる地域的な古紙の発生があるようですが一般的な古紙の発生はボーナス前と賃金上昇が大企業中心のためであり、食品、燃料等の値上げもあり、消費はアフターコロナの予測通り前年マイナスの上昇分はクリアできた。製紙会社から近距離運賃の値上げをしていただき、燃料代やタイヤ代等の不安定な計画生産が難しいよう製紙原料古紙のメーカー在庫はほぼ一杯で製紙原料古紙の発注量もマイナス約10～20%である。サービス業も当業界も必要な人手や人員の確保が重要で業務を遂行しながらAI・IT・DX化で効率を良くする事が重要だと思っている。ゴミ等の置き去り行為は増え、古紙の持ち去り行為は無くならず、持ち去り古紙を取り扱った業者も罰則を受けずにいるが、損害賠償請求等も含めて古紙持ち去り行為の撲滅とそのための立法化は必要であり、よりサステナブルで人に優しい社会づくりに役立つと思われる。
	印刷	印刷	6月期において、仕事量は昨年並みであるが依然低調である。先月の報告の通り7月には資材（封筒）の値上げがあることから、わずかであるが駆け込み需要もみられた。 印刷全般においては、コロナによる制約がなくなったことから、動きは鈍いものの回復傾向にあるが、デジタルへの移行を数的には多くはないものの、紙離れを聞く機会が増加している。
窯業・土石製品	伊賀焼	少しずつ業況も回復してきており、各組合員も忙しくしている。ただ、原材料、燃料費の値上がりにより、なかなか価格に反映できないことに頭を悩ませている。	
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前月と比べ、やや増加傾向であった。自動車産業が動いてきていることもあり、川下企業も今後動いてくると思われる。また電気代も今月から落ち着いているものの、電気代・材料費の高止まりが依然として収益低迷の要因となっている。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年6月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが需要、業績は停滞気味である。これまでの半導体不足や紛争の影響の他に急激な円安、人件費、輸送費の上昇も響いている。販売価格が上昇できても経費の転嫁のみで、人件費上昇分を反映させるのが難しいことが業績低迷の大きな一因である。コロナ規制解除や半導体の需給緩和が工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したいが、年内は様子見となりそうである。
		津市	売上は昨年より増加となったが、収益については悪化した。昨年から高騰が続いている電気代や輸送費が影響している。受注の方は少し戻ってきたように思えるが、コロナ前と比べると、まだまだ低い状態である。下期から受注が増える情報はあがるが、昨年も同じような状態で、結局増えなかったのに注意していく必要がある。
		伊勢市	自動車関連の国内受注は、少し戻りつつあるも厳しい状態が続いている。設備投資が少し良くなった感じはある。半導体不足は解消したと思われるが、需要の回復はまだまだ先になる。全体的に悪い感じが続いている。
	電気機器	鳥羽市	組合員企業では、5月同様、受発注は10~15%ダウンの状況が続いているが、主材料費はまだまだ下がりず、使用電気代は4月以降1.5倍以上の値上げとなり、製造原価が上がりっぱなしである。
	輸送機器	伊勢市	新型コロナ関連融資の返済期限到来や約定返済開始により、資金繰りがタイトになっている。
非 製 造 業	小売業	青果	野菜前半：トマト、ミニトマトは熊本県産に続き、愛知県産、岐阜県産が順調に入荷し価格も安定している。鳥取県産のらっきょう、長野県産、茨城県産の白菜もお値打ちである。長野県産のレタスは安価で推移している。じゃがいもも安定して入荷している。 野菜後半：長野県産のレタス、白菜の入荷が2~3割多く、お買い得になっている。かぼちゃは輸入品が中心で高値であったが、今月に入り鹿児島県産等の国産品が増えたことにより、輸入品はピーク時の半値にまで落ち着いた。長野県産のズッキーニは入荷のピークを迎えお値打ちになった。キャベツはやや高値である。 果物前半：すいかの入荷は熊本県産から愛知県産へ産地が移り、順調に入荷している。ハウス栽培の愛知県産は味も良い。山形県産のさくらんぼ「佐藤錦」の入荷が本格化している。鳥根県産のデラウェアはピークで値を下げている。 果物後半：愛知県産、山梨県産の桃の入荷が本格化し、今年は程よく日照や雨がありがたく多く、価格も昨年並みで値ごろ感があるので、ぜひ味わってほしい。すいかについては、愛知県産、鳥取県産が順調に入荷している。メロンは静岡県と愛知県から順調に入荷している。山形県産のさくらんぼ、宮崎県産のマンゴーの出荷が終盤に向かい、手の届きやすい価格になりつつある。
		自転車	世界的に資源エネルギー、原材料が高騰し、物価がかつてない程に上昇し、家計への負担も日増しに強まる中、自転車業界においても、大幅な値上げによる買い控え、客数の減少(少子化等)もあって、三重県内を含め全国的に小売業界は非常に厳しい状況との声が多く寄せられている。(一財)自転車産業振興会より令和4年(1~12月)の生産台数及び需要台数が発表された。自転車国内生産台数75万台(前年比:89%)、自転車輸入台数503万6千台(前年比:83.9%)で国内向け需要台数は578万6千台(前年比:83.9%)となり、前年よりも大きく落ち込んだ。また、ヘルメットに関しては、おしゃれタイプの商品の入荷待ちの店が多いようである。
		電器	ゴールデンウィーク期間が明けてからは、本格的に梅雨入りしたようで、通年の場合は夏商戦に突入するところだったが、足踏みさせられた感じであった。主にエアコンなどの動きもイマイチで、商品全体の動きもいまひとつであった。エアコンの取付工事や各商品の納品なども雨の都合で予定が組みにくい状況であった。梅雨明けからの猛暑となる期間がどれくらい続くか様子見である。
		石油	経済産業省は、燃料油価格激変緩和事業について6月以降、補助金1リットルあたり25円以下の部分は、2週ごとに1/10ずつ補助を引き下げる。つまり、補助額が2週ごとに9/10、8/10と段階的に減っていき、9月には2/10、1/10となって終了させると発表した。現時点ですでに7/10の補助額となっている。ただし、補助額が1リットルあたり25円を越す部分に対しては、補助額を引き上げて行く方針である。ただ、この見解は今後の原油価格の動向を見極めながら柔軟に対応して行くとのことである。石油元売に入っていた補助金が減額される分、我々への仕入価格が上がるため、小売価格へも転嫁していく必要がある。
		スポーツ	5月の情報連絡票にやっとコロナが終息し、すべての行事が前のように動き出したと報告したが、またコロナが息を吹き返したように学校で学級閉鎖が出てきた。世の中、ノーマスクでもよくなっており、また流行してしまうのではないかと心配している。行事がないと物が動かないし、必ず商売にはね返る。大きな波にはならぬように祈るばかりである。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年6月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
サービス業	熊野市	インバウンドのお客様がこの地方にも徐々に増えつつあり、観光地も以前より賑わいが戻りつつある。ただ団体のお客様は依然として少ない状況で、今後期待する声も多く聞かれる。
	旅館	感染法上の位置づけは2類から5類へと緩和されたが、都会や有名観光地は宿泊者が戻っているようであるが、なかなか地方は戻らず困っているのが現状である。夏休みの予約も伸びがまいちで、これからの好天と台風の襲来がないことを祈るばかりである。対前年比120%、2019年同月比65~70%程度であった。
	警備	コロナが5類に移行され、仕事量が昨年に比べて少し増加した。
建設業	内装工事業	6月は対前年比で大幅な減少となった。5月は売上が増えたので、その反動かもしれないが、今後このように上下する可能性はあると思われる。
	水道工事業 (亀山市)	水道事業の委託業務について、前年比で量水器の取替え個数が本年度は減少しているので、売上については毎月減少する。漏水については、漏水件数が増加傾向である。また、給水設備工事については価格の値上げができず、受注については各社厳しい状況が続いている。
運輸業	トラック	軽油価格は政府の燃料価格激変緩和補助金が段階的に引き下げられていることもあり、先月に比べ1リットルあたり2円程上昇しているため、燃料高騰分を運賃に転嫁できていない中小零細企業にとっては大きな痛手となっている。電子・デバイス部門は引き続き厳しい状況が続いているため、関連する輸送も減少傾向となっている。自動車部門については、半導体の供給がほぼ通常通りに戻りつつあることから、関連する輸送も好調である。スーパー・小売部門については、ほぼ先月並みに推移しているため、関連する輸送も先月と同水準となっており、好調を維持している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品 製造業	業務改善補助金の案内は役に立つ。働き方改革を再認識している、情報、知識を増やさなければと思っている。
食料品	製麺	助成金を活用した取組みにも積極的に進めていけるように行っていく。
繊維工業	衣料縫製	最低賃金上昇に伴う何らかの支援策をお願いしたい。
一般機器	四日市市	コロナ5類移行による制約の解除、インバウンド需要で経済が上向きざしとなることを期待したい、工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込み、物価や光熱費さらに人件費の増大も見込まれる。今後の状況を注視しながら、きめ細やかな支援をお願いしたい。
小売業	スポーツ	日本政策金融公庫の貸出でコロナの無利子無利息融資が4年前にあった。その返済時期が迫っていて、資金繰りに困っている組合員もいるようである。
サービス業	旅館	観光庁より交通・観光連携型事業 (地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化: 事業費1/2または2/3補助) の一次公募が締め切られた。三重県は全国一の事業採択を受けたが、自己資分の融資を地元の銀行が出さないの、せっかく採択されたが、棄権する事業所が出てきている。国策に反することでもあり期限もあるから、早急に善処してもらいたい。